

正誤表

『よくわかる専門基礎講座 生化学』第2版第5刷（2016年1月20日発行）、第6刷（2017年1月20日発行）に誤りがございました。下記のとおり訂正し、お詫び申し上げます。

2017年9月11日

金原出版株式会社

記

頁	訂正箇所	誤	正
146	本文 11 行目	* <u>クレアチン,クレアチニン:クレアチン,クレアチニンは大部分筋肉で産生される物質である。血中に出てくるクレアチンは尿中に排泄される。</u>	* クレアチニン:クレアチンやその高エネルギー化合物であるクレアチンリン酸の代謝産物であるクレアチニンは、大量のエネルギーを必要とする筋肉などで産生され、血中から腎臓の機能によって尿中に排泄される。
146	本文 18 行目	<u>クレアチン排泄量の増加は筋ジストロフィーのような筋肉疾患で見られる(p.69 参照)。</u>	※記述を削除

以上

正誤表

『よくわかる専門基礎講座 生化学』第2版第4刷(2015年1月30日発行)に誤りがございました。下記のとおり訂正し、お詫び申し上げます。

なお、*の付いた項目は、第3刷(2014年1月10日発行)で訂正済みです。

2014年6月13日

金原出版株式会社

記

頁	訂正箇所	誤	正
* 13	本文2行目	高度不飽和脂肪酸	二重結合を複数含む高度(多価)不飽和脂肪酸
* 39	本文12行目	38あるいは36分子の…	38(肝臓)あるいは36(筋肉)分子の…
39	本文24行目	そのとき生じたCO ₂ の量に対する消費されたO ₂ の量を呼吸商(RQ)と呼び…	そのとき消費されたO ₂ の量に対する生じたCO ₂ の量を呼吸商(RQ)と呼び…
118	表9-3 「ガストリン」の 「主な作用」	胃散およびペプシン分泌	胃酸およびペプシン分泌
130	表10-4 「カルシウム代謝の調節因子と作用」	図10-4中(3カ所)	図10-3中(3カ所)
130	図10-3		<p>(※の位置:正しくは、活性ビタミンDは骨からのCa動員に関わる)</p>
* 175	本文4行目	HbA1c JDS値が6.1%以上(国際的な単位 NGSP 値でいえば6.5%で従来の…	HbA1c NGSP 値が6.5%以上(国際的な単位 NGSP 値は従来の…
* 176	本文11行目	新診断基準にHbA1c値が加わったものの、糖尿病の診断は血糖値(従来基準①~③のいずれか)とHbA1c値の両方を評価するよう定められており、血糖値は必須のまま変わらない。	したがって血糖値(従来基準①~③のいずれか)とHbA1c値の両方が認められた場合に糖尿病と診断する。
* 176	「2 脂質異常症」3行目	…該当する場合をいう。脂質異常症の分類は表4-2(p.60)に示すが、遺伝的…(中略)…影響する(表12-6)。	…該当する場合をいう(表12-6)。脂質異常症の発症は遺伝的…(中略)…影響する。
* 184	「3-●中性脂肪」3行目	(p.60, p.176「高脂血症」参照)。	(p.60, p.176「脂質異常症」参照)。
* 191	付図-4	※図を右記のように修正	図の最上部「6グルコース6-リン酸」の左下に「G6PD」を追加

以上